

浜松未来総合専門学校（令和 6 年度実績）

学校自己評価・学校関係者評価 評価報告書

1. 教育理念・教育目標

〈教育理念〉

建学の精神「技術者の育成をもって地域社会に貢献する」

〈教育目標〉

本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従い、工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的スキル並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①安定した学校運営基盤を維持し、地域と時代に求められる質の高い教育活動を実現するため、日本人学科 285 名、国際系学科 70 名の入学生を確保する。
- ②本校がステークホルダーから「選ばれる学校」として評価を受け続けるため、教育体制をブラッシュアップし、教育実績を着実にあげる。
- ③地域に信頼され、評価される専門学校になるため、地域の産業界・企業・外部諸機関の教育活動への参加、連携、地域貢献活動を通し本校の認知度を向上させる。
- ④スピード感、教職員の自主性を重んじる学校運営と、グループ内連携の強化推進を図り、教育成果と教職員エンゲージメント向上の両立を目指す。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

（1）教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己評価 平均		4.0
成果と課題		
①教育理念並びに教育目標は、学校ホームページや学生便覧にて掲載している。		

②高い専門知識と技術（専門性）と、社会人として基礎的・汎用的能力（ジェネリックスキル）の育成である。 学科横断型プログラムでは、学科を越えたクラスを編成してグループワークを中心とした授業を実施している。 ③学校の将来構想については、法人内専門学校5校の長期・中期計画として計画、実行されている。 ④学校及び学科の育成人材像は、学校説明会やオープンキャンパス等で説明している。また、学生に対しては、みらい考房（修学基礎）にて、保護者に対しては後援会総会にて、学科担当が説明している。 ⑤教育課程編成委員会、シナリオサポート企業と連携して、業界のニーズの把握に努めカリキュラム改定を実施している。		
<u>今後の改善方策</u> ・引き続き、学校生活や学校の取り組みについては、ホームページ上での情報発信の機会を増やし、学生をはじめ多くの方への周知を図る。また、在校生に対しても重ねて説明をする機会を設ける。 ・教育課程編成委員、シナリオサポート企業の段階的な拡充により、多くの旬な業界ニーズの把握に努めている。		
<u>学校関係者 評価コメント</u> ・各業界のニーズの把握に努めている。 ・学校が目指す育成を学生、保護者に理解してもらえるように今後も継続的に説明して欲しいと思います。 ・入学実績が定員割れの現実と少子化の影響を中長期計画にどのように反映されているか、定員を守る対策が検討されているか。 ・法人内専門学校 5 校で長期・中期計画が立てられているのは貴重なことかと思います。相互の仕事に触れる機会を設けることで、高校、大学では得られない実戦的な学びを強みとして活かせるのではないかと思います。 ・「1-5 各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向付けられているか」について、今年から生成 AI を活用したプログラミング時間の短縮が行われています。まだ、定型化できていないようですが、Visual Studio など生成 AI 連携機能が追加されています。将来的なカリキュラム化を目指し、情報収集・実践をしておく良さそうです。 ・「専門学校であるが専門教育にとどまらずジェネリックスキルを育成する」との方針に強く共感します。介護職も対人援助の仕事なので、介護の知識・技術だけでなく、コミュニケーション力など「ジェネリックスキル」が求められています。 ・コミュニケーション力や問題解決能力といったジェネリックスキルの育成は、企業や自治体が求める人材像そのものであり、実社会のニーズに合致していると思います。卒業生が社会で即戦力として活躍するための強力な基盤となるため、今後も継続していただきたいと思います。 ・学科を超えたグループワークは、多様な視点と知識の融合を促し、新たな発想や解決策を生み出すイノベーションの源泉です。複雑な課題に取り組む上で不可欠な、柔軟な思考力と適応力を養っていただきたいと思います。 ・他学科の知識が役立つタイミングというのは社会に出ると直接的・間接的に実感できる機会があると感じ、とても良い取り組みだと感じます。 ・学科横断型プログラムや産学連携等、学んだ知識・技能を積極的に実践していて良いと思いました。		
学校関係者評価		4.0

（２）教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4

2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
学校自己評価 平均		3.9
<u>成果と課題</u> ①全科目のシラバスは、ホームページ上に公開している。また、各科目における授業開始の際には、授業担当が学生に対してシラバスに沿って授業計画や到達目標、成績評価基準等を説明している。 ②教育到達レベルや学習時間は、学生便覧やシラバスに記載して学生に説明している。 ③産業界・企業と創る「人材育成目標」に基づいた「人材育成シナリオ」を構築し、複雑化・多様化する分野に合わせ細分化した「小シナリオ」の中に目標達成に必要な科目を配置している。 ④教育課程編成委員会にて助言頂いた取り組みは、速やかに授業へ反映させている。 ⑤職業実践専門課程のもと、企業連携による実践的な職業教育が体系的に位置づけられている。 ⑥授業アンケートは年度3回の時期に実施し、集計後学科担当からフィードバックしている。 1回目 4月～ 7月全授業終了した科目→ 8月集計→9月返却 2回目 8月～11月全授業終了した科目→12月集計→1月返却 3回目12月～ 2月全授業終了した科目→ 3月集計→4月返却 ⑦成績評価、単位認定は教務規定に沿ってシラバスに記載、学生へ説明している。 ⑧資格取得については、各科で重点資格を位置づけ、受験、合格に向けた指導体制のもと授業運営をしている。 ⑨当該分野での実務経験を積んだ実務家教員の講師採用に努めている。また、指導力研修や技術研修を通して、継続的に教員のスキルアップを図っている。 ⑩すべての学科教員において技術向上を図る研修、指導力向上を図る研修に参加した。 ⑪カリキュラム見直しは、職業実践専門課程学科（職業実践専門課程申請予定学科を含む）では、教育課程編成委員会を開催（年2回）し、外部委員の協力のもとカリキュラムの作成・見直しを図っている。 ⑫目標に到達しない学生に対するフォローは、個別面談や放課後補習等により個々に寄り添った対応をしている。		
<u>今後の改善方策</u> ・授業評価にて収集されたアンケート結果において、特筆改善すべき案件はなかった。アンケート結果は、集計方法を改善し、速やかに講師へフィードバックしている。引き続き、授業終了後に速やかに授業評価を実施する仕組みを体系化する。 ・2名の専任教員採用に至ったが、教育人材の確保については常に課題である。非常勤講師を含めて、各学科とも		

専門性の高い領域であるため、採用においてもマッチする人材が少ない。継続的に、ホームページ掲載や人材派遣サービスの利用等、講師募集要項を周知させる。		
<u>学校関係者 評価コメント</u> ・授業アンケートで学生の反応を授業にフィードバックしている。 ・アンケートのスピード感などとても良いと考えます。 ・授業アンケートを年 3 回実施されており、アンケートの回答にて、特筆すべき案件はなかったとのこと。グラフィックデザイン科、デジタルコンテンツ科、ゲームクリエイト科の質問項目と回答が気になりました ・学生便覧について知らない生徒が多くいた。 ・何を目指して学んでいるか目標を明確にする必要がある。 ・目的意識が弱い人をどう減らすか。 ・生徒の学習意欲を高め維持することは難しいテーマですが、地道な取り組みを今後も期待しています。 ・資格取得が学科ごとに難易度が異なると思うが、合格に向けてより質の高い教育を期待します。 ・具体的な職業現場での課題解決を想定した演習や、業界で実際に使用されているツールや技術を取り入れるなど、学生のモチベーションを高め、より実践的な能力を養うことを期待しています。特に情報システム部門としては、座学だけではなく、実際に手を動かすことで得られる経験が、卒業後の実務に直結すると思います。 ・④産業界の委員から、現場で求められるスキル等を聞き取り、反映させているスピード感は素晴らしいと思います。 ・「2-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか」について生成 AI 利用時、AI によりプロンプトでの説明からソースコードは作られます。そのため、プログラマに求められるのは、どう説明すると期待した動作をするか、期待した動作をどう確認するか、期待した動作を確かめるための入力と出力は何か、モデルとなる入力と出力のテストデータをどう作るかになります。既に生成 AI 関連の資格試験もあるようです ・ブライダルの教員採用に関して一度人材紹介をさせていただいたことがありましたが、細かい条件までわからず、選考までは進めずということがありました。指示いただける内容が増えると今後またご紹介もできるかと思います。 ・「教員の継続的なスキルアップ」に課題があるとお話でしたが、現場としても、施設見学・実習を通して教員様のレベルアップに寄与できたら幸いです。 ・自分が学生の時よりシラバス等を活用していると思いました。		
学校関係者評価		3.9

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	3
3-3	退学率の低減が図られているか	3
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
学校自己評価 平均		3.5
<u>成果と課題</u> ①就職内定率 99.6% (目標 98%)、専門職内定率 86.5% (目標 85%) を達成した。 ②資格取得では、年度初めに目標合格率(数)を掲げ対策授業を講じている。計画と実施と検証のサイクルを実施。 ③休退学率は 6.0% (昨年 5.6%)であった (精神的 44%、進路変更 18%、病気 10%、経済的 10%、学業不振 8%、家庭事情 3%、その他 8%)。休退学者の約半数が精神的によるものであった。 ④同窓会は継続的に運営されている。卒業生の社会的な活躍については同窓会より情報提供を受けている。		

在校生の教育成果発表の場として「浜松未来ウィーク」(学習成果発表)を開催した。
<u>今後の改善方策</u> ・毎年度、重点資格として位置づけられているものについて指標を定め、目標必達としてPDCAを回している。 ・精神的理由による休退学者が多く、高等学校時代からの不登校や精神科への通院歴など、学校としての対応には限界があった。引き続き、スクールカウンセラーと連携のもと、欠席者への早期対応をさらに心がけて学生のケアに努める。
<u>学校関係者 評価コメント</u> ・数値化や個別性の問題はありますが、卒業生に対して就職した企業などへの聞き取りができると良いと思いました。 ・学科と社会が求めている人材の整合性が取れているか関連職内定率を見ると一部整合性が取れていない。 ・ミスマッチを防ぎたい(GD、DC科の63%台の理由) ・ゲームクリエイト科は、システム開発会社に就職するケースがあると聞いていました。関連職にシステム開発が含まれていれば、今まで伺った話、助言させていただいた話とマッチすると思っています。ゲーム開発の特徴を持った潰しの効くプログラマ向けの助言でした。 ・就職実績で内定率が昨年を上回っていることが素晴らしいと思った。 ・休退学者の理由については難しい問題だと思うが、学生のケアを続けて欲しいです。 ・学校としてできることはやっていると感じました(主に退学率に関して) ・社会全体で精神的ケアを必要とする学生が増えている中、貴校でも同様とお見受けします。介護現場も同様ですので学校在籍時はもちろん卒業後も貴校と連携していけたら幸いです。 ・昨年よりも進路変更、学習意欲、学業不振による休退学が減少しており、学生の学科選びのミスマッチが減少している点は良いことだと思います。学生に対して丁寧な対応をしていることも評価します。 ・退学率は難しい所ではあるが、引き続き低下を目指してほしいです。 ・資格取得率の学科間でのばらつきは、学科ごとの教育内容や学生へのサポート体制、あるいは資格自体の難易度やニーズの違いに起因する可能性が考えられます。資格は学生の専門性を客観的に示す指標であり、就職活動においても重要な要素です。情報システム分野においても特定の資格は企業から高く評価されます。各学科の状況を詳細に分析し、必要に応じて資格取得支援の強化、学生への動機付けを図る等、フォローいただければと思います。

学校関係者評価

3.8

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	4
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4

4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
学校自己評価 平均		3.9
<u>成果と課題</u>		
①学科担当と就職担当が協力のもと、学生の就職相談には常時対応している。また、校内合同企業ガイダンスで 82 社、校内個別企業説明会では 101 社を招へいし、学生と企業とのマッチングを図った。 ②学科担当によるホームルームや個別面談を実施している。スクールカウンセラーによるカウンセリングをプライバシーに配慮して受けられる体制を整えている。オンラインによるカウンセリングも随時可能である。 ③「高等教育の修学支援制度」の認定を受けている。またこれまで通り、学生支援機構の奨学金制度や提携するクレジット会社の教育ローンを低金利で利用できる。 ④年度初めに全学生対象に健康診断を実施している。また、学校医を契約しており、必要に応じて日頃からアドバイスが受けられる体制を整えている。 ⑤保護者から成る後援会が組織されており、学校に事務局を設置している。学生指導として出欠席指導、成績不良者に対する保護者連絡等は常に実施しており、学生の変化を状況に応じて情報を共有する体制をとっている。 ⑥卒業生から成る同窓会が組織されており、学校に事務局を設置している。定期的に役員会・同窓会を開催して卒業生の動向把握に努めている。また、卒業生への再就職支援体制を継続的に運営している。 ⑦高等学校との連携によりガイダンスをはじめ授業も増えてきており、キャリア教育・職業教育を各種職業分野において実施している。 ⑧求人数 1,505 件（昨年 1,401 件）、求人企業数 982 社（昨年 925 社）と、ともに増加している。外国人留学生（グローバル人材）の在籍増加に伴い、受入れ先を引き続き開拓していく。 ⑨課外活動として、学校全体規模でバス遠足や、学科ごとに教育上必要な施設見学や展示会見学等を実施する際は、保護者による学校後援会組織からの支援を受ける体制を整えている。 ⑩本科生における教育環境は十分に整備されている。今後、法人全体においてリカレント・リスキリングに対する取り組みが検討、実施されていく。		
<u>今後の改善方策</u>		
・就職活動の早期化や多様化する学生への対応を適切に行い、個々に向き合った指導を実践する。 ・カウンセリングの利用推進により、多様化する学生にきめ細やかな支援を行き届かせていく。 ・高等学校の連携校数の更なる充実化と中学校へのアプローチも行っていきたい。 ・リカレント、リスキリング教育は、中長期的計画に盛り込まれ検討している。		
<u>学校関係者 評価コメント</u>		
・近年強まる就職活動の早期化に対応していくことは、学生が納得のいく進路選択をする上で不可欠です。早期からキャリア教育や業界研究の機会を提供することで、学生はより計画的に就職活動を進められ、学生にとって、メリットになると思います。一方で、学業や就職活動で抱ええるストレスは少なくありません。気軽に相談できる環境を整えることで、学生が学業に専念し、健やかな学生生活を送れる用サポートすることは、教育効果の向上にも繋がると考えます。 ・就職支援のため、82 社に合同企業ガイダンス、個別企業説明会を 101 社にされているとのこと。継続して参加されている企業さんに、継続している理由を伺うことができれば、減らしても良い点、新規企業獲得に足りていない点が見つかるかもしれないと思いました。 ・求人数が増えているのはとても良いことだと思います。 ・コロナ禍を経て学生時代に結婚式列席経験がありブライダル系への就職を目指すという層が減少していくことが予想されます。企業からはアプローチが難しい高校、中学での業界アピールをしていただけますと大変ありがたく存じます。		

ます。

・社会全体で精神的ケアを必要とする学生が増えている中、貴校でも同様とお見受けします。介護現場も同様ですので学校在籍時はもちろん卒業後も貴校と連携していけたら幸いです。

・昨今、時代の変化が著しくその中で学生の支援は常に緊張感が伴うと思いますが、引き続きリカレント、リスキリングに対する取り組みを盛り込んだことも踏まえ対応して欲しいと思います。

・録画を拝見しました。売り手市場ということで、高校生採用、大学進学が増え、専門学校入学は難しい状況とのこと。そんな中、(10)では教育環境は十分整備されており、リカレント・リスキリングに組み込みとあります。新たな市場へ進むことを視野に入れていると感じました。

・リカレント、リスキリング教育を高校の産業界の教員にも活用させていただきたいです。4-10は(8)の内容になるのではないかと感じました。

学校関係者評価

4.0

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	4
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ①講義室、実習室は管理担当者（教員）を割り当てている。ハードウェア・ソフトウェアについても定期的にバージョンアップを図っている。
- ②実習室及び教室は原則自習室として開放している。図書は、各科で専門書を購入して教室や実習室で自由に閲覧できるよう整備している。
- ③全ての教室にノートパソコン、タブレット、Web カメラ、プロジェクタを設置し、対面授業とオンライン授業のハイブリッド授業環境にて運用している。また、学科特有の教育用機器についても、整備活用している。
- ④各科教育上必要な実習室や設備など、学習をするための環境は整っている。
- ⑤防災マニュアルが整備されており、毎年全校生徒を対象に避難訓練を実施している。
- ⑥学科担当、就職担当、分掌担当の役割分担のもと、効果的な成果があげられるよう実施している。

今後の改善方策

- ・引き続き、学生数や人材育成目標に見合った機材整備は計画的に取り組んでいく。
- ・研修旅行を復活させ、韓国にて各科分野に特化した研修プログラムを実施した。

学校関係者 評価コメント

- ・講義室と受講生のバランスがとれていない。狭い教室もあれば受講生の人数に比べて広い教室もある。
- ・学校校舎のセキュリティは問題ないか？（教育現場に外部から侵入者のある事件があった。学生と講師の入口を分離するとか対策が必要？）
- ・校内も常に清掃されていて勉学に励む最適な環境だと思います。
- ・欲を言えばキリが無い中で限られた予算をどう使うか。

- ・健診で学校内に入る機会があるが教育環境は整っていると感じます。
- ・近年は充実してきていると思います。
- ・先日校内の見学をさせていただく機会がありましたが、改めてとても良い施設・設備であると感じました
- ・コンピュータ関連の知識は、インターネット上に沢山あるので授業外でも学ぶことができるモノです。学生が、授業外でも学校に残り興味を持ってコンピュータ知識を得られるような目的意識を持たせられることを期待します。
- ・私も大学時代、授業後電算室で同級生と一緒にプログラムを書いていました。その経験がその後のセガ入社後にも活かしていると思っています。電算室の担当者が好意的に受け入れてくれたのを、今でも感謝しています。
- ・専門的な設備の導入は、貴校が実践的な職業教育を重視していることの表れであり、高く評価いたします。これらの機材は、単なる知識習得に留まらず、学生が実際に手を動かし、試行錯誤しながら学ぶ機会を提供できると思います。これらの貴重な教育資源が、実際にどれだけ学生の学習に活用され、どのような教育効果を生み出しているのかを分析し、貴校の教育の有効性を評価する指標を設定すると良いのではないのでしょうか。
- ・介護現場は新たな ICT 機器、介護ロボットが導入されています。実習だけでなく、見学や授業などで介護現場を活用いただけたら幸いです。
- ・研修旅行を海外で実施し、国際的な視野で自身の専門分野を見つめるとともに日本の産業界の国際競争力を考えることは大変有意義であると思います。

学校関係者評価

4.0

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ①②入学案内・募集要項については、毎年見直しを図り、虚偽のない正確な情報掲載を常に努めている。
- ③オープンキャンパスの参加は学校選択において大きな要素となっているため毎月1～2回（ピーク時は学年別に4回）開催し、運営内容も試行錯誤しながら参加者に寄り添った内容となるよう検討の上実施している。また入学選考は10月以降月1回実施し、3月は志願者ごとに随時実施している。
- ④学習内容ははじめとする作品の成果物、取得資格、就職実績などの教育の成果は、ホームページ、パンフレット、オープンキャンパス時の学校・学科説明（高校訪問時も含む）にて伝えている。また昨年度はホームページをよりステークホルダーごと見やすく知りたい情報を知り得ることができるようリニューアルをおこなった。
- ⑤学納金については、教育の質の維持・向上、施設設備、消費税率など内外の要因を見極め、内部の効率的な運営に努めながら法人全体で適切に判断している。

今後の改善方策

- ・今後も継続して対象者に分かりやすく情報を整理し、業界事情や学生支援活動を外部に発信し続け、紳士的な募集活動に努める。

学校関係者 評価コメント

- ・経営環境は厳しいものがありますが、これまで通りの地道な活動を期待しています。
- ・少子化が進む中、常に見直しや見極めをし、より良い学生支援活動を行うことを期待しています。
- ・適切なご対応をいただいていると感じました。
- ・募集の際、伝える内容は学校の教育理念、教育目標を業界のニーズに合わせた表現とするのが、効果的かと思います。業界ニーズの把握について尽力されているかと思うので、ぜひ、有効な表現に活かしてください。
- ・「6-3 学生募集活動は、適正に行われているか」の部分ですが、不正が無いかのチェック方法についてかと思いました。恐らく、企業との癒着を心配しての項目かと思ったのですが、私の認識であっているのでしょうか？
- ・入学者数の減少は現場への輩出の減少に直結するので、学校と現場は運命共同体だと感じています。学生募集に現場を最大限利用いただけたら幸いです。
- ・貴校の教育理念や教育目標及び教育環境や成果に基づく適切な学生募集が行われていると感じました。
- ・募集に対する採用数の伸び悩み、そして情報系の大学進学傾向があるとのこと、専門学校を取り巻く現在の厳しい状況が伺えます。その中で、今後の改善策として業界事情や学生支援活動を外部に発信していくことは、非常に重要だと感じます。貴校の主要なターゲットとなりうるペルソナをいくつか想定し、それぞれに響く発信方法を検討すると良いと思います。※情報系分野に関心のある高校生（特に進路に悩んでいる層）、保護者（子供の将来を真剣に考える層）、高校の進路指導教員など。

学校関係者評価

3.9

（7）教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	3
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4

学校自己評価 平均		3.9
成果と課題 ①法人内人事評価制度に従い3回（目標設定、進捗、成果）に分けて実施している。②教務・総務・広報・就職部門間が連携して業務上の様々な問題解決に取り組んでいる。法人内グループ校間との連携は、さらに強化していく必要がある。③④非常時における危機管理対策については、法人全体での対応が周知されており、学校毎の消防等安全に対する対応は常に行っている。避難訓練は毎年4月に実施している。⑤⑥⑦学校としての教育目的、事業計画に沿った運営方針は毎年策定され、運営組織の体制も常に見直しを行っている。⑧⑨就業規則を含む諸規程は法人によって整備されている。全ての規程集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。⑩業務を遂行するための各種情報システムは整備されているものの、カレッジによる特徴あるカルチャーは、全校的な運営体制の統一の壁となっている。ガバナンス統制、効率化の観点から、引き続き更なるDX化の推進が必要である。⑪⑫⑬教育活動に関する情報公開はホームページやパンフレット等を通して最新の情報を提供している。自己評価本評価についても公開している。⑭⑮⑯⑰予算主義を基本とした運営に努めており、財務情報の公開、会計監査など経営上必要となる法令、設置基準に必要な法令は遵守している。⑱個人情報の取り扱いについては教職員への教育・指導を行っており、現時点で問題となる事例は発生していない。⑳ハラスメント防止のための委員会を設けている。また体制や相談窓口も周知している。		
今後の改善方策 引き続き、健全で効率的な経営に努める。法令順守を徹底し、全てのステークホルダーからの信頼維持に努める。また、業務の標準化も継続的に取り組んでいく。		
学校関係者 評価コメント ・全職員が生徒の方を向いてお仕事されていることは素晴らしいことです。 ・全ての規程集を教職員が自由に閲覧できる環境にあることは非常に良いと感じます。 ・「7-7 運営組織や意思決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか」有効に機能しているかをどのように測っているかが気になります。有効に機能しているモノは、改善点が見つからず、変化に対応できなくなる原因にもなることがあると思っています。 ・ハラスメントにつて、何がハラスメントに当たるか、どのような事例があるかを知らせているでしょうか。私もハラスメント研修を受けた際、こんなことがハラスメントに該当することがあるのかと思った事例がありました。最近ですと、外注先へのハラスメント事例で意外なモノがありました。幸い、自分は外注先と触れる機会がないので驚いただけで済みました。 ・各部署の更なる連携により円滑な運営を目指していただきたいです。 ・適切であると思います。		
学校関係者評価		4.0

（８）社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3
8-5	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
学校自己評価 平均		3.8

成果と課題

- ①高等学校対抗のワープロ競技会、中学校/高等学校などからの職業体験授業実施等、各種専門分野においての受け入れ、施設活用を多数行っている。
- ②③留学生に対しての在留更新や生活サポートなど分掌担当者を取り決め、各種法令に従った適切な受け入れ手続きを行っている。
- ④浜松未来ウィーク（学習成果発表）や保育特別講座など、近隣住民や連携先施設等の方に参加いただいたが、職業訓練の受託には至っていない。
- ⑤県警サイバー防犯ボランティアをはじめ、学内外の活動においての取り組みを奨励し支援している。

今後の改善方策

地域貢献につながる取り組みをさらに強化し、開かれた学校として施設利用の促進を行っていく。

学校関係者 評価コメント

- ・行政（浜松市）、各種経済団体（商工会議所）、教育機関（他大学）、地域自治会等連携を強化するとよい。
- ・生徒が学び習得した知識、スキルを地域に還元する機会を充実して頂くと一層教育効果も高まると思います。
- ・留学生の受け入れは今後重要になると思うので引き続き対応して欲しいと思います。
- ・外的要因で入学者が減少する中で、どう社会的プレゼンスを上げていくか、学校のコンセプトを再構築する時かもしれません。
- ・また機会がありましたら学校で行われる発表会やイベントなど見学ができればと思います。
- ・社会貢献・地域貢献、国際交流は学校のみなさんの負担になり、効果が見えにくい活動かと思います。今回、ワープロ競技会経験者が入学されたという話がありました。定性的な効果が見えたかと思います。これを定量的に測ることができれば、発展のための目標が見つけれられるのではないかと思います。
- ・県警サイバー防犯ボランティアは良いですね。地域貢献に関しては、見識が無いのでお話をうかがいたいです。
- ・介護現場では利用者向け、地域向けのお祭りや行事などを様々行っています。学生さんにボランティア参加いただけたら幸いです。
- ・高校も教員が新しい知識を吸収する必要があります。今後のリカレント、リスキリング教育の取り組みの検討・実施に期待しています。
- ・高等学校対抗コンテストや職業体験授業の受け入れは、未来を担う若い世代が専門職業分野、特に情報分野に触れる貴重な機会を提供していると思います。これは、将来的に地域社会の DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する人材の裾野を広げ、質の高い人材を育成する上で非常に重要な活動です。自治体としても、こうした連携を通じて、地域に根差し、公的な視点を持つ IT 人材が育つことを強く期待しています。

学校関係者評価

3.9